

## 産学連携による 鹿児島地域の活性化をめざして

内野 政子  
九州バイオリサーチネット



23年度からコーディネーター活動を開始し、2年目になります。担当は、主に鹿児島地域です。

鹿児島県の農業改良普及職員として長く活動してきたことから現場ニーズは把握できているものの、最初はどこから手を付けて良いかわからず、大変とまどいながら活動を実施しました。

主な活動は、一つが九州バイオリサーチネットの他コーディネーターの支援を受けながら、農林水産省の実用化事業への提案を予定する2課題を支援する活動、二つめが鹿児島地域における産学官ネットワークの構築です。

### ① 競争的研究資金への支援

支援課題は、「九州ブランド茶確立のための多様な茶種の安定生産技術の開発」と「定置網における魚数計測および魚種判別システムの実用化」。

前者は、鹿児島県農業の主要品目で面積・生産量ともに年々増加している茶について、九州3県の公設試等が共同研究で新茶種の生産安定技術の開発をめざすもので、リーフ茶の消費が減退する中期待も大きい。まず、研究総括者のA氏と実用技術開発事業応募に向け「意欲を共有することからスタートして、研究課題提案書の検討を進めた。同時に、普及現場や茶販売店を訪問し、装置改良を含めた釜炒り茶の総合的な製造技術の開発が求められていることなどを確認した。

次に、共同研究機関については10月の課題別研究会で検討し、県外の共同研究機関が決まった。また、普及支援組織として、これまでの企業の他に研究成果を現場で実証普及している普及職員を紹介した。支援の実施にあたっては、九州バイオリサーチネットの全コーディネーターによる協議とフィードバックを繰り返した。

また、後半は熟度をさらに向上させるため、茶専門のコーディネーターと二人三脚で課題を支援した。

年度当初からすると、課題、研究内容、共同研究グループ等大幅に見直しをして実用技術開発事業への応募がなされた。

この活動を通して、連携の力強さ、企業のフレキシブルな発想と戦略を実感することができた。今後もシーズや地域のニーズを最大限に生かせるよう産学官の連携活動に尽力していきたい。

後者については、株式会社TLOが総括研究機関となった課題で、繰り返し訪問し問題点の指摘と再構築を提案した。特に、後半は採択実績を持つコーディネーターの応援を受けながら支援した。しかし、漁業現場のニーズ把握の不足が最後まで尾を引き提案には至らなかった。

この活動を通して、現場ニーズの十分な把握が提案書構築の基礎になることを改めて実感した。

地域のニーズを十分に把握し、シーズを最大限に生かせるような支援のできるコーディネーター活動を目指して、今後も努力していきたい。

### ② 鹿児島地域における産学官連携ネットワーク

鹿児島地域では、鹿児島大学産学官連携推進センターの呼びかけにより異業種も含めて大学、独法、公設試、民間企業、行政機関が参加する「産業支援コーディネーター会議」が年4回開催され、幅広い情報交換・連携活動が推進されている。また、ネットワークの参加機関が主催するセミナーや研修会等にも参加して、地域内における連携を強化するとともに、大学や企業の技術シーズやニーズ情報を得ている。今後も積極的に参加し、さらにネットワークを拡大していきたい。

氏 名：内野 政子（うちの まさこ）

専門分野：農産加工、普及方法

所属・役職：九州バイオリサーチネット コーディネーター

略 歴：元 鹿児島県生活改良専門技術員、農業改良普及センター次長等、前 鹿児島県農業改良普及研究会事務局長（総合農業情報誌の編集事務等）、現（社）鹿児島県農業・農村振興協会 経営構造対策アドバイザー

メッセージ：

農業・農村をめぐる情勢やその展開方向を踏まえて、長年普及職員として活動してきました。それらの活動を通して体験した農業者や関係機関・団体との連携、調査研究、地域のニーズに対応した課題解決手法を農産物加工等の産学連携支援コーディネーター活動に活かしていきたいと思っています。